KASADERA KANNON

まちづくりの可能性を広げ
人と人のつながりを生む「シェアする」という考え。

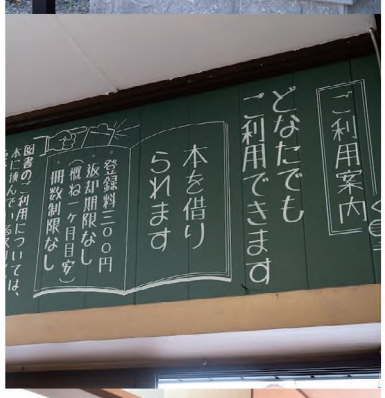
笠寺観音商店街 かさでらかんのんしょうてんがい

名古屋市南区、名古屋鉄道名古屋本線「本笠寺駅」から東へ。旧東海道沿いに位置し、笠寺観音の門前町として発展した笠寺観音商店街。まちづくりの活動が本格的に動き始めたのは2007年、楽しく暮らしやすいまちを目指し、まちづくりの会「かんでらmonzen亭」が発足しました。さらに、2018年に名古屋市の商店街商業機能再生モデル事業「ナゴヤ商店街オープン」の舞台に選出されたことを契機に、まちづくりが加速。「シェア」をキーワードに、可能性とつながりを広げています。

名古屋市南区前浜通・笠寺町

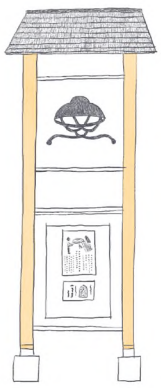
事例集は「愛知県商業流通課webページ」でもご覧いただけます

発行：愛知県経済産業局中小企業部商業流通課／企画：株式会社ナゴノダナパンク



2万年前	旧石器時代	海に面した台地だったこの地には旧石器時代から人が住み続けている。
733	笠寺観音の起源 「小松寺」建立	奈良時代に笠寺観音の起源となる小松寺が建立され、平安時代には玉照姫の逸話をきっかけに寺の名前が天林山笠覆寺（りゅうふくじ）となり、尾張四観音の一つ「笠寺観音」が誕生した。旧東海道沿いであることと門前町ということでまちは栄えていった。
1917	愛知電気鉄道笠寺駅開業	愛知電気鉄道は、名岐鉄道との合併で名古屋鉄道となった。1943年に国鉄東海道本線に笠寺駅が開業したことに伴い、「本笠寺駅」に改称。
1943	名古屋市電笠寺線開業	太平洋戦争中に笠寺線・笠寺延長線が開業した。 最盛期には商店街に約80店舗が加盟。飲み屋も多く、映画館やボーリング場など歓楽街として賑わった
1959	笠寺観音発展会設立	笠寺観音発展会ができた頃は、高度成長期で景気が良く、集金などもスムーズだった。
1974	名古屋市電笠寺線廃止	沿線の工場や学校への通勤通学路線として多くの人に利用された市電は全廃された。 たくさんの通勤客や学生が名鉄との乗り換えでまちを通っていたが、市電から市バスへ転換、後に地下鉄もでき、まちを歩く人が急激に減った
1996	ユニー笠寺店閉店	環状線と旧東海道が交差する交差点に立つ大型スーパー「ユニー笠寺店」が閉店。マックスバリュへ建替えとなる2012年までの間に、空きビルはまちづくりのイベントに使われることもあった。 商店街には喫茶店やレコード店、衣料品店、靴屋、笠寺の笠屋などがあった コンビニの普及が商店街の役割に大きな影響をもたらしたと感じる
2007	ターニングポイント 「かんでらmonzen亭」立ち上げ	商店街や町内会、笠寺好きの人たちで笠寺まちづくりの会「かんでらmonzen亭」を立ち上げた。旧ユニー笠寺店のショーウィンドウを整備し「笠寺アートスペース」をオープンし、貸し出しの運営を行う。その後も精力的に活動を重ねていく。 地域では本当に醤油の貸し借りがあったし井戸端会議をしていた
2018	ターニングポイント ナゴヤ商店街オープンに手を挙げる	様々な属性の参加者と一緒に、模型を見ながらディスカッション。笠寺観音商店街にある空き店舗に何があるといいか、それがどうまちに波及効果を生むのかを検討。
2019	取組成果 「かさでらのまち食堂」オープン	「シェアする」というコンセプトのもと、日替わりシェフの食堂「かさでらのまち食堂」をオープン。その後も精力的に活動を重ねていく。 初年度はスケジュールがカツカツ大変だった！ 波及効果 物件活用 ・かさでらのまちビル（2020） ・Yasai BASE（2024） ・BUTAKOYA BOOKS（2025.7予定） かさでらのまち食堂が入っているビル全体を「シェアする」というテーマで改修。民泊、寺子屋、シェアオフィスの事業者が入った 波及効果 社会実験 「かさでら道くさ社会実験」実施（2021） 名古屋市の「地域まちづくり活動助成」を活用した社会実験を実施。日替わりの移動式販売「軒先ワゴン」、名古屋市図書館が参加した「ヤドカリBOOKワゴン」、3か所の民地の壁を使った「壁コミュニケーション」等
2023	取組成果 「かさでらのまち箱」オープン	ナゴヤ商店街オープンのイノベーション事業に応募。檜の浴槽を作る瀧本浴槽店があった建物を改装し、3分割して安く借りられるようにして図書館、和菓子屋、アンテナショップの事業者が入った。
2023	2回目の ナゴヤ商店街オープン参加	前回は参加者の1人だった「かさでらのまち食堂」宮本さんがアドバイザーとして関わる。
2024	取組成果 「マチ・スタンドmotokasa」オープン	コーヒー＆ビールスタンド「マチ・スタンドmotokasa」が本笠寺駅前にオープン。 笠寺観音商店街や地域の日常に潜むヒトモノコトを取材・編集・発信する「かさでらのまち編集室」も発足

まつりの多い地域で、笠寺の南にある笠寺七所神社のまつりは"ぬえ"や、"しょうじょう"の衣装で練り歩く他にも地域のこどもの"けんか神輿"も以前やっていた



今後の課題

・入居希望はあるのに物件がない。物件の開拓が必要。
・シェアする物件を運営するむずかしさはある。向き不向きがあるので適当でありたい。

やりたいことを持ってきてくれた人を応援するまちでありたい。

ナゴヤ商店街オープンとは

2018年、名古屋市経済局地域商業課の『商店街の商業機能再生を図るためのモデル事業』としてスタート。「空き店舗リノベーション事業」と「外部人材交流促進事業」を通して、名古屋市内の商店街の活性化に取り組むとともに、まちのサポーターやプレーヤーの育成を目指す事業です。笠寺観音商店街は初年度の2018年と2023年に「空き店舗リノベーション事業」の実施商店街として採択されました。

※「空き店舗リノベーション事業」では、これまでに名古屋市内8商店街11軒のお店がオープン、1軒のプロジェクトが進行中です（2025年1月現在）。

門前町に生まれた「やりたい」を実現するまちづくり活動

＞＞伊藤さん
笠寺には旧東海道や笠寺観音があって、古くから多くの人が行き交う土地柄です。1974年まで市電が残っていて、名鉄本笠寺（もとかさでら）駅から市電・市バスに乗り換える人や、大江や東名古屋港に働きに行く人、今池や大曽根に行く人もいて、それは多くの人で賑わっていましたよ。昭和30～40年代の高度経済成長期は景気がよくて、映画館やボウリング場なんかもあって、歩行者天国をやったときなんかは人が押し寄せて歩けないほど。当時は80店舗くらい商店街に加盟していたんじゃないかな。

＞＞宮本さん
私は笠寺で生まれ育って「本を買うならここ」というように、子どもの頃から商店街の行きつけのお店がありました。祖母は毎朝観音様へ行って、帰りにモーニングを食べるのがルーティンで、よくついていきましたね。高校生や大学生くらいになると地元から外へ目がいくようになったのですが、また地元に目が向くようになったときにはすっかり賑わいがなくなっていました。

＞＞青山さん
バブルの崩壊や大型スーパー進出の影響もありますよね。また、今ではモノを買うだけだったらネットで十分だし。商店街の役割が大きく変わってきていると考えています。

＞＞伊藤さん
地下鉄の桜通線ができてからは、市電時代のように岡崎や豊明から来る人が本笠寺駅で乗り換えるということもほとんどなくなったね。野並から栄方面に行く人は地下鉄で行くから、笠寺の通行量が顕著に減ったというのも大きな影響だと思います。それがちょうど平成初期のバブル崩壊と同時期くらい。あとはコンビニも増えたしね。何でも売っているコンビニは商店街の縮図のようなもの。平成以降は景気が悪くなって、代替わりせずに閉める店も増えたね。

＞＞青山さん
僕は地元の人間ではないけれど、仕事で東京に2年間出向した後に名古屋に戻ってきて、東京で一番好きになった下北沢みたいな街をつくりたいと思ったのが原点です。それで場所を探しているときに笠寺と出会って、当時商店街の理事長だった伊藤さんにネット経由でメッセージを送ったのがはじまりですね。2007年に「かんでらmonzen亭」という会を作ってまちづくり活動を始めて、笠寺観音商店街と連携してイベントなどをやってきました。ユニー撤退後の空きビルを拠点にして、学生と一緒にファッションショーやアートイベントをしたことも。他には笠寺観音の境内を借りて落語をしたり、お寺の池に住んでいる亀の住民票を作ったりね。面白そう・やりたいとみんなが考えていることを10年の間に1つずつ実現していました。

＞＞宮本さん
私は当時地元を歩きながら「なんか変なことをしているな」と思って見ていました(笑)。

＞＞青山さん
拠点としていたユニーの空きビルが取り壊しになってしまって、その後、金物屋さんの物件を新たな活動拠点として借りた頃に宮本さんが見に来たのが最初の出会いでしたね。

毎日お店に立つことが原動力
地元の人が、「何かやりたい」という人を
理解して受け入れていくことが大切

伊藤邦一 さん
ミハル2代目店主
笠寺観音商店街振興組合 前理事長

スキルや場所をシェアしながら進める
活動には寛容さが大事
適当さ加減が合っていると上手くいく気がする

宮本久美子 さん
建築士、かさでらのまち食堂運営代表
笠寺観音商店街振興組合 副理事長

どんな人が来てくれてもうれしい
やりたいことをみんなで応援する街にしたい

青山知弘 さん
笠寺観音商店街振興組合 理事長
かさでらのまちビルオーナー

地元・笠寺の変化にびっくり
笠寺に関心を持っている人がたくさん
集まってきてうれしい

伊藤修平 さん
ミハル3代目、デザイナー

スキルも場所もシェアして活かすまちづくりを実践

>>宮本さん
私は事業を運営するナゴノダナバンクの藤田さんに誘われて、2018年に名古屋市の商店街商業機能再生モデル事業である「第1回ナゴヤ商店街オープン」に参加することになったのを機に、地元のまちづくりに関わるようになりました。ナゴヤ商店街オープン自体も初年度だったから手探りだったし、今より笠寺に関わっている人も少なくて、スケジュールもタイトでとにかく大変でした(笑)。

>>青山さん
イベントを始めとしたソフト面での活動を10年やり、土台ができてきたからそろそろハード面でのまちづくりを展開したいと考えてナゴヤ商店街オープンに手を挙げました。ここから数か月で予期せぬことが一気に起こったドラマのような展開でしたね。いろんな事情が重なって、「かさでらのまちビル」のオーナーにもなりました。

>>修平さん
僕も2021年に駅前の道を使った「道くさ社会実験」でのコーヒー出店を機に関わるようになって、こんなに多くの「何かやりたい人」が笠寺にいたんだ、と驚きましたね。

>>宮本さん
まちづくりには重要な存在が4人いると考えています。それは「建築家」「不動産屋」「デザイナー」「ステークホルダー」。この中でデザイナーが不在でした。デザインはとても大事だと思っていて、誰か良い人いないかなと思っていたら、修平さんがデザインもやれる人だと知って「ぜひ一緒にやりませんか?」と巻き込みました。まちの人のスキルをシェアして活躍してもらうのが理想です。

2019年5月に「かさでらのまち食堂」、2020年4月に「かさでらのまちビル」がオープンしましたが、ちょうどコロナ禍が始まった時期で大変でした。特に食堂と民泊に影響がありましたね。できることを模索していくうちに、地元の人も来てくれるようになったのは良かったです。外の人との連携を意識するきっかけにもなりました。

>>青山さん
最初はコロナ禍で苦戦した民泊の方もV字回復しています。お客様は名古屋に滞在する外国人の方が多いですね。笠寺を拠点に別のエリアに行く人が多いですが、笠寺も門前町の歴史があって面白い場所なので、ここを目的に来てくれる人も増やしていきたいです。

>>宮本さん
2023年2月には「かさでらのまち箱」もオープンしました。社会実験を経て本を介した密なコミュニケーションが取れることがわかったので、次に空き店舗に何か作るとしたら本のある空間がいいなと考えていたんです。これまでの経験から、仕事をシェアする副業的な商店街への関わり方の可能性を見出していたことと、1事業者だけで成り立たせるには賃料の負担が大きいことが課題だったので、3事業者でシェアする形に。その結果「事務所・アンテナショップ」「和菓子店・チャレンジショップ」「かさでら図書館」が誕生しました。かさでら図書館は一箱ごとに本棚のオーナーさんを募り、本の貸し借りや販売をする私設図書館で、今は80箱ほどのオーナーさんがいます。事業者となった坂本さん・八町さんが本棚オーナーさん同士の交流の機会も作っていて、本を介したコミュニケーションが生まれています。

駅前に新たな拠点づくりが進行中。まちの編集室から発信も

>>青山さん
物件との出会いもご縁です。まちづくりを始めてから、井戸に始まって、活動拠点や倉庫、養蜂ができる場所などをずっと探しているので、周りの人に物件を探していることが知られてきて紹介してもらえることも。物件探しを始め、まちづくりにはやはり地元の人たちとの信頼関係が大切です。地元の人間関係を熟知している伊藤さんのようなキーマンが欠かせないからこそ、「かんでらmonzen亭」の代表になってもらいました。

>>宮本さん
2度目のナゴヤ商店街オープンでは、駅前にコーヒー&ビールスタンドがオープンしたところです。お店としての機能に加えて人を巻き込む仕掛けを作って、関係性を育んでいく場所にしたいですね。「かさでらのまち食堂」で「ファンづくり・食のプレイヤーの繋がり」ができ、「かさでらのまち箱」では「本を介した新たな人同士の出会い」が生まれています。他にも2つの社会実験を通して思考の幅が広がりました。ナゴヤ商店街オープンがきっかけで、笠寺のまちの「ヒト・モノ・コト・空気感」を文章や写真、空間を通じて発信する「かさでらのまち編集室」の活動も生まれています。新たな場を拠点にまちの編集室の活動を育てて「地域としての発信力」をつけていきたいです。

>>修平さん
商店街自体はシャッターが閉まっているところもあるけれど、確実に動きが大きくなっているとも感じています。自分もデザインで関わるようになりましたが、巻き込む人だけじゃなくて、巻き込まれる力も大事なのかなと思います。

>>伊藤さん
歴史が長い商店街だし、古くから住んでいる人も多いので、地元の人に理解してもらうことも大切。宮本さんや青山さんが入ってきたとき、最初はどんな人かわからなかったけれど、地元の人が若い人たちや何かをやりたいという人に、いい場所をどう提供していくのか。その折り合いをつけていくことも必要だと思っています。

>>青山さん
僕が来てからの14年間は伊藤さんが商店街の理事長だったので、地元との交渉や相談など様々な場面で間に入っていただいて助かりました。伊藤さんはいずれミハルを修平さんに事業承継していく予定で、商店街のことも次世代にバトンを繋いでくださっています。地元の方の次世代への理解や、外からくる人への寛容さがあって、よそものの私がまちづくりの活動を続けられているのだと感じています。

>>宮本さん
笠寺は長年住んでいる人も多く、井戸端会議や醤油の貸し借りのような住民同士の関係性が濃い地域だから、外から来たコンサルタントが入りにくい場所かもしれませんね。私自身は、関わる人が好きなことを好きなだけ表現できるまちであれば良いと思っていて、建築やデザインを通じて変化し続けていければと考えています。

発行／愛知県経済産業局中小企業部商業流通課
企画・編集・デザイン／株式会社ナゴノダナバンク
藤田まや、市原正人
安井加奈子、鈴木真理(テキスト編集)、安達麻未(MAP)
イラスト／ parayu
写真(メイン、コラージュ)／岩田直和
対談ライティング／伊藤友季子

2025 年 1 月発行

掲載情報は 2025 年 1 月時点のものです。